令和７年度　学校評価自己評価表

学校教育目標
気づいて　考えて　やってみる！
―　自分を大切に　人を大切に　力を合わせて　―

めざす子供像
- ○　豊かに感じる子（気づく）
- ○　考え学び合う子（考える・自分で考えて行動する力）
- ○　チャレンジする子（やってみる・やりぬく力）

めざす学校像
- ○　子供が主役の学校
- ○　出会いと感動のある学校
- ○　地域と共に歩む学校

めざす教職員像
- ○　確かな授業力をもつ教職員
- ○　豊かな人間性をもつ教職員
- ○　愛情と使命感に満ちた教職員

ふるさとを愛し、「知・徳・体」の学びを生きる力の基礎として身に付け、
将来への夢と希望をもち、意欲に満ちた子どもの育成

	中期 経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標(評価方法)	担当	目標値	自己評価(中間)			改善方策	評価(適切かどうか)			学校関係者評価
								達成度	評価		○ 適切	△ まあまあ	× 不適切	コメント
知	未知の課題に経験・既習・他者の意見を関係付けて解決できる児童を育成する。	○思考の「すべ」を獲得し、それをいかせる授業実践を通して、「関係付ける思考力」の育成を図る。	・各教科において、子どもたちの問題解決過程を意識した「すべ」を獲得させる授業の実施。対話を通し考えを深めたり、新たな考えが生まれたりする授業構成。授業中、自分の考えを書かせる活動を必ず取り入れる。 ・学びを下支えするために、言語活動（学校丸ごと図書館・俳句）の推進。俳句は年間十句以上作成（１年生は五句以上）、読書は学年ごとに目標冊数を設定する。 ・特別支援教育の考え方の活用。	①単元末テストにおいて、国語・算数の正答率80%以上の児童の割合。 ②標準学力調査の国語・算数で評定２以上（CBT評定３以上）をとる児童の割合。（最終）	教務部	①80%以上 ②75%以上								
徳	自他を尊重する豊かな人権感覚を持った児童を育成する。	○積極的生徒指導の推進や自他を尊重する学級づくりを通して、豊かに感じる（気づく）子どもの育成を図る。	・児童会活動、委員会活動を充実させ、加計小トライ「あはそろじ」を意識化させていくことで児童一人一人が校内の諸課題に気づく力を高め、自分から改善に向かうような仕掛けの工夫。 ・学級活動の充実をベースとする集団作りに取り組み、児童が自分たちでくらしを見つめ、課題を設定し、解決、及び実行していく力を高める。	①「あはそろじ」に関する児童アンケートの項目において、肯定的回答の割合。 ②学級活動における自治的な課題解決活動の実施回数。	生徒指導部	①85%以上 ②年間５回以上								
体	健康・安全への意識を持ち、自らの生活をよりよくする実行力のある児童を育成する。	○体力の向上を図る。 ○生命の安全教育の実践を通して心と体を整える。	・走力・持久力に対する重点的な取り組みを通して体力の向上を図る。 全校体力テストは６月、再体力テストは１０月頃に実施する。 ・生命の安全教育を各学年の発達段階に応じて実施し、学級だよりで保護者に内容を伝える。	①体力テストでの５０ｍ走の記録が、前回の自己記録を上回った児童の割合。 ②生命の安全教育を実施し、学級だよりで内容を伝えた学年の割合。	保健体育指導部	①70%以上 ②100%								
信頼される学校	地域・保護者とつながり、子どもが創る、大人が支える学校を構築する。	○学校生活を支える家庭環境や、子育て・学びへの考えの醸成を図り、地域・保護者とつながる活動の推進を図る。	・総合的な学習の時間の充実を図り、地域・保護者と創立150周年を盛り上げる機運を高め、地域が好きな子どもの育成を図る。 ・「子どもとたくさん話そう　大人も話そう」をPTA目標とし、保護者と学校が気軽に話せる場をつくり（学級懇談会の待ち時間など）保護者にとってもウェルビーングな学校づくりを行っていく。	①保護者アンケートにおいて「学校の特色ある活動に満足している」の肯定的評価の割合	総務部	①95%以上								

評価基準		
	A	達成率が９０%以上
	B	達成率が８０%以上９０%未満
	C	達成率が６０%以上８０%未満
	D	達成率が６０%未満